

第3回世界自然遺産5地域会議 議事要旨

■開催概要

日 時：令和6年11月19日（火）10:00～12:00

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501・502号室／リモート会議併用
（アーカイブ配信あり）

出席者：＜5地域会議構成員＞

世界自然遺産5地域会議（以下「5地域会議」という）会員23名（長を含む17市町村長、代理5名、1公益財団法人理事長）〔うち19名（代理3）が対面、4名（代理3）がリモート参加。欠席は2名〕

＜関係行政機関・支援機関＞

植田明浩環境省自然環境局長、番匠克二環境省自然環境局自然環境計画課長、石井洋林野庁森林整備部森林利用課長、石田良行林野庁国有林野部経営企画課長、中村利雄イベント学会会長、田東博地球産業文化研究所事務局長〔以上対面〕

※その他屋久島環境文化財団役員、随行者、事務局等を含め、合計84名が参加。

■議事内容

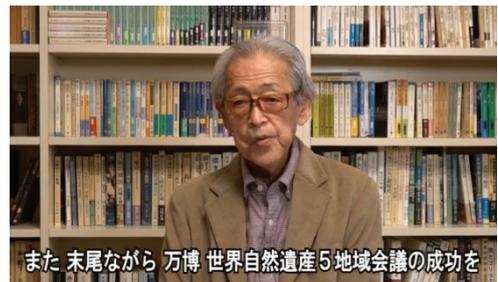
開会

司会が開会を宣言。

5地域会議代表、小野寺浩屋久島環境文化財団理事長は、本日体調不良のため、事前に撮影したビデオメッセージにより、あいさつ。

[小野寺屋久島環境文化財団理事長 ビデオメッセージ]

（欠席の謝罪と近況の報告ののち、本日の会議運営を、副代表の荒木屋久島町長と、イベント学会会長で屋久島環境文化財団特別顧問である中村利雄氏に全面的にお任せする旨を表明。最後に、万博、世界自然遺産5地域会議の成功をかたく信じていると述べ、あいさつとした。）



世界自然遺産5地域会議規約によると、「本会の会議は代表がその議長となる」とあり、「代表に事故ある時は（副代表が）その職務を代行する」とあることから、司会は、副代表の荒木耕治屋久島町長に発言を求めた。

荒木副代表（屋久島町長）：本日の会議は、小野寺代表のメッセージにもあった通り、来年の大阪・関西万博への参加方法や内容等について審議し、決定することが主な目的である。ついては、本日の議事進行役を万博の運営について誰よりも詳しく、当5地域会議でも1回目から説明や助言、支援をいただいていた、中村利雄氏にお任せしたい。会員の皆様にもご承諾をお願いしたい。

中村議長(イベント学会会長):小野寺代表、荒木副代表のご指名により、本日の議長役を務めさせていただきます。

私はかつて、鹿児島県の企画部長しており、その関係で、屋久島環境文化財団とは大変ご縁があり、今は特別顧問を任せられている。もう1つは、愛知万博の時に事務総長だったので、そのご縁で、イベント学会の会長や今回のプロジェクトのスポンサー役を務めている地球産業文化研究所の役員を行っている。今回のイベントについてもいろいろな働きかけをしたという経緯があり、私が務めさせていただくこととなった。よろしく願います。

司会が、山極寿一総合地球環境学研究所所長から、ビデオメッセージをいただいていることを報告。

[山極 寿一 ビデオメッセージ] (要旨)

第3回世界自然遺産5地域会議の開催にあたり、京都から一言ご挨拶を申し上げます。

私は、本年1月19日、京都で開かれた第2回世界自然遺産5地域会議の際、特別講演者としてお招きいただき、その後の会合にも参加させていただきました。演題は、「世界自然遺産がもたらした新しい価値とこれからの未来」というもので、これについて皆さんと意見交換をすることもできました。



本日の第3回5地域会議の主なテーマは、当会議として参加される来年の大阪・関西万博での事業内容などを決めることと伺っております。

私は、京都という地域を通じて、またシニアアドバイザーとしても、今回の万博に関与しております。そういうご縁もあって、5地域会議のこのイベントに協力させていただくことになりました。6月5日、EXPOホール(シャインハット)で予定されている催事の1つ、国際シンポジウムの企画、運営を担当します。このシンポジウムでは、1月の京都会議で議論したテーマをさらに深めていきたいと考えており、登壇者の招請をはじめ、準備に取り掛かっているところです。

万博は、日本の世界自然遺産地域の皆様の取り組みを国内外に発信するまたとない機会です。日本における5つの世界自然遺産がいかに魅力ある世界の財産であるか、多くの方々を巻き込み、遺産地域の保護と経済的な発展をともに図っていきたく願っております。皆様とともに、このイベントの成功に向けて努めてまいりたいと考えております。

(以上)

司会から本日の出席者と資料の紹介をした後、中村議長の進行により、議事に入る。

議事(1)大阪・関西万博への参加について(報告)

5地域会議事務局を務める屋久島環境文化財団池田事務局長より、資料の4～9ページを説明。

大久保町長(伊仙町):4ページの最初、5地域が進めている自然と共生した地域活性化の取り組みに関し、「とりわけ途上国の理解促進」とあるが、これは、途上国は自然遺産があまりないというか、これから自然遺産登録に向かっていくための日本のやり方を説明していくということなのか。

中村議長:途上国で色々自然遺産についても課題があるという前提でこういう文言が入っているということだと思うが、発信先はあくまでも全世界であり、世界自然遺産がある国々のいろんな活動を中心に議論をすればいいのではないかと思っている。

大久保町長:ユネスコでは今後、例えば文化遺産と自然遺産をもうこれ以上増やしていかないという考え方はあるのか。

植田局長(環境省自然環境局):自然遺産などを増やさないといいところにはなっていない。数は絞って厳選していこうという動きがあることは間違いない。もう1つ、一旦遺産になっても、特に途上国などは「危機遺産」という形で、きちんと管理できていないようなところはできるだけなくしていこうという動きはある。きちんとコントロールできている世界自然遺産というのはみんなが目指しているということは間違いない。

中村議長:我々としては、日本のアプローチが1つの方法であるとして、世界的にも理解してもらいたいと思っている。

議事(2)万博参加の計画について

枝松事務局員(株式会社メッツ研究所):以下、万博参加の計画案について説明。

1) 事業実施内容

－催事のテーマ:5月6日については、3団体で調整中。

6月5日については、「千の時間・千の自然」、つまり日本の世界自然遺産5地域の非常に多様な自然と、それが非常に長い歴史の中で作られてきた、そういうものと私たちが出会う場だということを示そうとしている。

－主催等:共催として、イベント学会、一般財団法人地球産業文化研究所を挙げている。この団体は、2005年愛・地球博の理念継承事業を色々行っている団体であり、大阪・関西万博では、「共創パートナー」に登録されている。「共創チャレンジ」に登録された私どもも5地域会議による当プロジェクトを、資金面や情報提供の面でサポートしてもらっている。

－「広報・集客の方針(案)」:広報・集客が事業として非常に重要であり、考え方、やるべきことをはっきりさせておく必要があるため、最初に掲げている。まず目的、次に、いくつかの制約の下での進め方、集客の目標を記載。また、アピールする中身、広報の手段。手段としては、5地域の自然環境、文化の紹介、あるいは万博参加に関する告知のパンフレットをできるだけ早く作ることを考えている。

2) 催事の詳細

－催事の詳細①5月6日テーマウィークの催事:5地域会議の持ち時間は2時間程度、事例発表や地域課題について、各地域あるいは企業の方々、有識者の方々でディスカ

ッションする。進行の構成や登壇者の詳細はまだ最後まで決まっていない状況。

－催事の詳細②6月5日 EXPO ホール(シャインハット)でのステージプログラム:会場は非常に大きな施設。そこで11時から18時まで、大きく4つのプログラムを予定。

プログラム1は、子ども作文「世界自然遺産と私たちーみつけた！自然のふしぎ、自然と暮らすたのしみ」。地域を挙げての参加を期待している。

プログラム2は「日本の世界自然遺産『千の自然・千の時間』に会う」というタイトルで、これを2-1、2-2、2-3と3区分。TBSの番組「世界遺産」で撮りためた映像を編集し直して上映する。2-2では5地域別の映像をそれぞれ上映しながら、各地域にゆかりのある著名人が地域の魅力などを紹介、解説。いわば各地域の応援団の方々に登場いただく。2-3は芸能パフォーマンス。5地域で生まれ育まれた様々な芸能や文化が出合うということで、ジャンルの異なるパフォーマーたちが一体となってステージを盛り上げる。ただ、資料に挙げた出演者の名前の多くは、候補の段階であり、確定できていない。この25ページと次の27ページについては、この場限りとしていただきたい。

プログラム3は国際シンポジウムで、「世界自然遺産を引き継ぎ生かす、共生と循環の理念(仮)」と、5地域から世界へのメッセージといったタイトル。山極寿一先生にコーディネーター、モデレーターとなっていて、世界で活躍する有識者とともに話し合う場となる。山極先生と相談して候補者をリストアップし、今、交渉中という状況である。

－催事の詳細③EXPO ホール内の多目的室を使った展示:各地域から、映像ソフトも含め色々な展示物を持ち寄って、地域の自然や文化を紹介していくというもの。展示台や壁面は事務局側で用意する。

3) 事業化計画

－事業費について:経費を積み上げた上で、その金額を事務局、共催に入ってもらっている支援機関、それに会員から、調達する。何がやれてどれだけ負担ができるかについては、アンケートや地域別の意見交換会を開き、担当者レベルでの情報共有、調整を行ってきた。その結果が、プログラムや展示などの内容になっている。事業費は、現在、概算見積りを取って調整をしている最中だが、共通経費部分だけでも、数千万円かかるものになると思われる。それに必要な資金については、なんとか調達できそうだとこのころまできている。

－役割分担、負担金について:地域参加にあたっての役割分担と費用負担を示したのが39ページの表。地域負担金は、各会員がこの事業に参加するにあたっての基本料金に当たるものであり、共通経費の一部にあてさせていただく。この負担金の配分については、各担当者の方々と議論してきた。23市町村の均等割りか、あるいは5地域、別の県でいうと7地域、7地域割りにしていくか、事務局としては、7地域の均等割りを基本としたいと考えた。ステージの時間配分や展示のスペース配分は5～6の地域で区分することを原則としているためだ。地域内での市町村の配分については、各地域内での協議の上決めていただくものと考えている。

－運営上の検討課題について:博覧会協会で施設の「使用ガイド」を定めており、これにどう対応していくのか。また当日の施設運営上の分担など、細かいことを決めていく必要がある。当日も、会員の皆さんにご協力いただければと思う。

スケジュールについて:計画が正式に決定されたら、改めて担当者が集まって具体的な準備を進めていくことになる。EXPO ホールの場合、4 か月前までに、中身を決めていかなければいけない。

以上のとおり、会員の皆さんのご協力で成り立つという計画案になっている。本日、ご審議の上で、実施のための計画として決定していただきたい。

本日は、今回の催事の 1 つの目玉になる映像がどんなものになるのか、準備を進めている MBC(南日本放送)にデモビデオを用意していただいた。

(約 5 分の屋久島、奄美の自然のビデオ上映)

丸山専務理事(MBC 南日本放送): 私ども南日本放送は、鹿児島にある、TBS 系列の放送局です。1993年に屋久島が世界遺産に登録されるその以前から、屋久島の動き、環境と共生、循環と共生という取り組みに共鳴して、取材を続けてきた。そのご縁で 今この場に立たせていただいている。映像をご覧いただきながらお話をさせていただく。

今回の万博の取り組みでは、TBSさんと協力して、「The 世界遺産」が撮りためた 5 つの地域の、4K という高精度の画質の映像を EXPO ホールの大型スクリーンで上映して、それぞれの地域の特徴を迫力ある映像で味わってもらおうと考えている。今日ご覧いただいているのは私どもが撮りためた屋久島と奄美の映像で、こういったものにナレーションや字幕や場所を紹介する字幕等がついていく、そんなイメージである。

事務局:本番時は、この自然映像の後に色々な方にお話をさせていただくが、その時に、地元の活動、地域の暮らしなどを表した映像を合わせて紹介をしながら説明をしていただく。

議事(3)意見交換・議決

中村議長:首長さんにご出席いただいているので、順番に一言ずつご意見をいただければありがたい。

山内町長(斜里町):今回のこのコンセプト等々については、幹事として以前より聞いていたので、この部分についてはそれぞれ進めてもらえればと思っている。自然と我々の営みがどう共生、調和して現在に至っているかということをしかりとアピールしていくという場にする、そんなイベントになればいいと思っている。



イベントでの内容については、まだまだお隣の羅臼町の湊屋町長、また知床財団ともこれから詰めていく必要があると考える。

また、どの程度経費がかかってくるのか。とくに参加するにあたって、少なからず地域のメンバーが大阪に行くことになる。その時の宿泊確保についてうまい方法を検討いただけないか。例えば何かの公共施設の寄宿舎的なものなどがあると非常にありがたいと感じる。

中村議長:宿舎とか寮のようなものがあるかは、聞いてみないと分からないため、後日調べた後で返答するとさせていただきたい。

湊屋町長(羅臼町):これから来年度の予算編成を行っていくうえで、費用負担というのは非

常に大きい。例えば地元ゆかりの人を誰かということで、それが地元負担になってくると、大きな予算が必要など、いろんなことを考えなければいけない。その辺は地域として相談をする時間が必要になると感じている。この部分について、全体的な予算負担と、それ以外地域での負担をどう考えていくかという点をもう少し明確にしていきたい。

事務局:まず「地域負担金」は、参加の基本料金として全市町村に願います。ほかに、会場に来るための旅費負担。それから、地域が主導する出演、出展とその費用負担。すなわち地域の紹介で進行とか解説者の方に出ていただく、それから芸能パフォーマンス。これらは基本的には地域の方でお願いしたい。地域によっては、すでに候補の方にコンタクトを取り、謝金や旅費も含めて、決めてもらっているようなところもある。

ただ、依頼する人によっては、非常に大きなお金がかかる場合があるので、それについては、全体の予算を見て、例えば一定額以上の部分は全体で見るということを考えさせていきたい。展示については、ほとんど地域の側では負担はなく、クリエイターの方については、全体の予算の方で願いますと考えている。

中村議長:私は地球産業文化研究所を代表しているので申し上げるが、例えばこの国際シンポジウムとか先ほどの映像を作り上げる費用であるとか、それから、相当大勢の方が来るので、全体の運営管理をする費用がかかり、それも私どもで負担させていただく。この斜線になっているところは、私どもで負担する。そういう前提で、事務局が言ったような費用負担で考えている。

森田町長(天城町):地域負担金として560万ほどかかるというものがあつた。しかし、39ページの注意書きの黒丸については、予算計上が必要な経費項目として、負担金とは別だという話をされている。そういう考えで私たちは話を進めるということになるのか。

事務局:そのとおりだ。地域負担金とは別に、下の2重線以下の黒い黒丸については、原則として地域の方で負担いただくということで、これまで説明を行ってきたところだ。その上で、一定レベル以上の負担が生じた場合その部分をこちらの方で負担する、という考え方である。

堀内町長(八峰町):また負担金の話だが、この負担金の7地域割りというのは、これはもう決まった話なのか。この5地域で均等に割った金額が、それぞれの負担金になるかと私は考えていた。なぜ、例えば白神だと青森県と秋田県にまたがっているから2県分だという形で分けられているが、なぜそのような分け方をしたのか理解できない。その部分の説明をお願いします。

事務局:最初に均等割りした時に非常に大きな差が市町村ごとに出るということになり、それを5地域に割った時に、もっと差が大きくなるということがあつたため、県を別にした5地域を見ると7地域になるということで、7で割らせていただいた。その結果、白神の場合は2つ分を見ていただく形になった。

堀内町長(八峰町):申し訳ない。全然理解ができない。参加している世界自然遺産地域は5地域なのに、なんで5で割れないのか。市町村によって負担金の差が大きくなるのは、仕方がないのではないか。

事務局:事務局ではその分担方法も考えたのだが。

堀内町長(八峰町):なぜ勝手にそうやって決めているのかが理解できない。それぞれPRで

きる展示スペースなどは5分の1しかないのに、なぜ負担金の分割がそうではないのか。そこを説明していただきたい。

事務局:一応、皆様とご相談した上で、このような負担にさせていただいている。

堀内町長(八峰町):先ほど負担金について、この場で結論を出したいと言っていたが、この状況では私は納得できない。逆にそこをご理解いただきたい。

事務局:わかりました。検討させていただきます。

村田理事長(知床財団):来年は知床がちょうど20周年。世界遺産の節目にもなっており、いろんな場面でイベントやアピールを行っていく。アピールの主体は、知床の場合、この20年間で世界遺産がどう変わったか、それは保全の面とか地域の産業との関わり、漁業とか観光とかそういった場面との関わりで、世界遺産になってどこがどう変わったかというところを発信していく場と捉えている。我々の立場上も、そんな機会が作っていただけるといふ気持ちを込めて参加させていただきたいと感じている。

予算のことなど非常にシビアな問題で、こちらは金額の問題ではなくて筋道の問題だと思っている。私の受け止めは、23で割るか、7で割るか、5で割るかという、いくつかの案があつて、この間何回もやり取りは事前にリモートも含めてやらせていただいていたので、その結果ここへ来たのかなと思っている。金額そのものよりも、私はやはり考え方の問題なのかなと受け止めた。その辺を整理していただいたうえで進めばいいのかと思う。

それと、1点だけ確認だが、5月6日に関しては、今内容もまだ見えていないが、何か具体的にこれから起こるとは考えていなくてよろしいのか。

事務局:5月6日については、各地域からは代表の方に出ていただくということで、負担は旅費ぐらいのことで考えていただければよろしいかと思う。

平田町長(鱒ヶ沢町):去年白神山地が30周年を迎え、今まではいろんなことをかなりやり尽くした感はあるが、改めて世界にPRできるいい機会として、万博に参加させていただきたいと思う。

桑田村長(西目屋村):昨年、30周年ということで、多くの観光客に、白神山地に来ていただいた。今年も引き続き多くの方が見られるようになってきている。

さて、今回の万博だが、今周りはAIの技術の進化等によってすさまじいスピードで進んできている。この進化に対応するべき、自然遺産という歴史を全世界にアピールする場として素晴らしい場だと思っているので、ぜひとも参加させさせていただきたい。

また、費用や予算面についても多々ご意見があると思うが、うまく問題をクリアして成功に導いていただきたいと感じている。

櫻田市長(弘前市):弘前市としては、観光都市として文化的なものも含めてこれまで発信してきたが、今回のこの世界自然遺産5地域会議というのを世界に発信する場として、私どももいろんな形で参加させていただきたい。

世界自然遺産というのは、この世界自然遺産と地元の住民が共生してきたという長い歴史がある。この共生してきたそれぞれの5地域の生活や文化をご紹介させていただいて、それから、来場された方々が何かを得られるような、自分のこれからの将来、自分たちの地域の将来に向けたものに何か得られるような、そういう学ぶものに繋がっていくことを大いに期待している。

佐々木町長(藤里町):伺いたいのは、集客目標のこの600名という人数の設定について。このメインの会場に入るための入場料や予約制とかと書かれているが、これはどのようになるのかなという素朴な疑問である。

せっかく来たのでメインのところにも入りたいということも当然あると思われる。予約のことも含めて、そしてまた入場料はいくらになるのかということをお教えいただければありがたい。

事務局:入場料については、万博会場に入るための入場料が必要。入ってしまえば後はいらぬということになる。

中村議長:もう少し正確に言うと、原則入場料がいるのだが、例えば出演者とか、参加者という位置付けにすれば、無料で入れる。ただし、参加者という形で入った場合は、参加している以外のパビリオンには入れない。そのため、ちょっと他も見たいなという場合は、当日券だと7000円。そういう費用を払っていただくことになる。

佐々木町長(藤里町):例えば私どもの方であれば関西秋田県人会というのがあるが、そのところにも当然ご案内を差し上げようかなと思っているわけだが、このステージに入るためには入場料はかからないのか。

中村議長:それはいいません。それから、ここの600人という方については、座席は確保している。パフォーマンスをやる方は参加者という位置付けで入場するので、入場料そのものもいらなくなることはある。ただその場合は、入れる場所はそこだけになってしまう。

堀内町長(八峰町):先ほど、費用負担のところでは意見を申したが、西目屋の村長も弘前市長もおっしゃっている通り、白神山地をPRできる絶好の機会だと私は思っておりますので、この取り組み自体には賛成である。それを申し伝えたいと思う。

それと、白神山地というのは青森と秋田が跨がっているところなので、あくまでも私は1つの地域だと思っている。どうかご理解いただければと思う。

渋谷村長(小笠原村):第2回の時に、都道府県も加えたらという話をした。まずその報告になるが、東京都にあたった結果は、協力はするけど会員やアドバイザーには入らないという結論になっている。一方で、東京都が観光関連で5地域のPR活動をやっており、それを来年は大阪で商談会を前日に開いてくれる。万博会場ではないが、そういう方向性になっているという話が来ている。それはぜひ利用していただければと思う。

それで、さっきの八峰町さんの意見を聞きながら、こちらは小笠原一村ですから、幹事をやっていて、今まで、自分のところの負担にばかり目が向いていたのは正直申し訳なかったと思う。例えば25ページのプログラムで、白神さんは両県跨がっていても1枠である。例えば⑤のところは奄美と沖縄で、トークが15分ずつ2回にわたっていると、パネル展示も、奄美と沖縄は分けているが、白神山地は1つという、そういう実際に現場での負担が違っているのを見ると、費用で6地域にするか、それか7地域分同じように芸能やパネル展示をやるか、その辺を考えないといけない。やはり費用のことになると皆さんいろんなご意見があるから、6地域案なり、白神山地をもう少し優遇するという提案をしたいと思う。

元山村長(宇検村):私も、この奄美、沖縄のパフォーマーが果たしてこのままでいいのか、沖縄にはもっと素晴らしいパフォーマーもいるのかなというのも考えたりしながら、やはり、負担金のことも含めて、地域でしっかりと揉んでいかないといけないのかと感じている。

鎌田町長(瀬戸内町):大阪万博が終わった後に、いろんな映像、全体映像、また各地域の映像があるが、その映像の権利というか、各町のホームページで紹介するとか YouTube で紹介などできるのか。その確認をしたい。

丸山専務理事(南日本放送):今回お願いをしている TBS さんの「世界遺産」をホームページ等で各自治体が随時に利用するというのは、難しい。番組にはスポンサーがついており、非常に高いハードルがある。これはまた TBS さんと相談するが、厳しいだろうというのが今の直感である。

中村議長:YouTube かなにかで流すことが可能なのか。会期中は。

丸山専務理事(南日本放送):難しいと思う。当日のライブについては、またそういう検討ができると思うが、各自治体へ権利があるというふうにはなかなか言えないだろう。

中村議長:地域の TBS 系列の放送局に頑張ってもらって、それぞれの地域でまた流してもらわなきゃいけないということだ。

高岡町長(徳之島町):負担金については、万博が5月と6月に開催なので、当初予算にしっかりと載せたいと思っており、時間がどうかと心配しているところだ。ぜひ確定をしていただきたい。決められたことにはしっかりと対応していくので、事務局にはよろしく願います。

そして、地域での発表については、それぞれの地域で再度話し合うことになると思う。また、奄美は関西奄美会が非常に楽しみにしており、この万博についても協力したいという話を多々伺っている。ぜひ、決めなければいけないことは早めに決めていただきたい。

森田町長(天城町):私たち5地域で日本の自然の素晴らしさというものを世界に打って出るという、絶好の機会だと思っているので、色々と課題をクリアしながら、みんなで協力して、この大阪・関西万博を、成功に導くことができればと思っている。

大久保町長(伊仙町):徳之島も奄美も、関西奄美会の方々が協力したいということ話をしている。そうした時に、これからこの万博をどのように地域の活性化のために活かしていくかが重要だ。他の文化も色々あるわけなので、そういうことも今回の万博で発信するチャンスだと思っている。

例えば、世界遺産は徳之島と奄美大島だけだが、奄美群島は一体という考え方である。それからまた、将来的に見たら、奄美と琉球はもう一体となって物事をやっていくように我々はしたいと思っている。沖縄の方々とも協力していくという意味においては、今回の大阪万博の持つ意味は、政治的にも大きい。奄美と琉球というのは大きなラインがあって、そこは交流もなかなかできなかった中で、南西諸島ということをもとめて考えたら、非常に効果のある大阪万博になっていくと期待している。

知花村長(国頭村):沖縄から4町村を代表して、本イベントについては、趣旨も賛同もするし、意義があるものだと思っているので、我々としてもしっかりとやっていきたい。

先ほどから多くの意見や課題が出た。私も同じ意見である。

例えば予算の問題とか、あるいは市町村に具体的に何をしてほしいのか。そういったものを早めに具体的に明示をしていただきたいと思う。

荒木町長(屋久島町):私どもは白神さんと一緒に30周年を行った。30年を数えてみる時間を持って、世界自然遺産に登録して、これだけ当たるとは思っていなかった、これだけ交



流人口が来るとは思っていなかった。それが最初の感想だ。なので、保護、保全というか原点回帰、それこそが1番基本である。世界に発信することも当然大事だが、自分たちの町や村がこの30年でどうなったのか、どう変わったのかと、そういう検証をきちっとやらないといけないと思っている。

自然遺産イコール観光ではない。自分たちの島はそういう自然を守ってきた、豊かになって誇りを持って今までやってきているという、そういう思いがある。そのため、今度のイベントで、皆さんにはそれぞれあるが調整をして、大阪万博を成功するように皆さんに努力をしていただければと思うので、どうぞよろしく願います。

安田市長(奄美市): 本日はオンラインで失礼します。今回の企画、もう既にワクワクしておりますし、もう聞いただけで既に感動をしているところです。

予算に関しては、私は特段それほど意見はないが、しっかりと皆さんが納得していただけるような配分というのを、また再度ご検討いただければと思う。あと、シンポジウムに、絵本作家のミロコマチコさんが候補に挙げられていて、ぜひともお願いしたい。子供たちから大人にまで、幅広く色々なメッセージを発信されている方だ。

あと、関西奄美会の方々から参加したい、協力したいというお話もこれまで度々いただいているので、ぜひ早めに決めて、早めに交渉して、早めにもう準備を、もう踊りの準備を、多分半年前ぐらいからすると思いますので、早めに決めていただきたい。

中村議長: 大変心強い話を伺った。1800人埋まるんじゃないかなということで、大いに安心した。事務局の方から少し補足がある。

事務局: 先ほど、5地域割り、6地域割り、7地域割りの話があったが、地域割りの話と、スペースの話、時間の話が別々に進んできてしまい、結果的に、ご指摘いただいたような矛盾が出ている。その辺については、また、担当者の方、あるいは幹事さんの方も含めて相談させていただきたい。

あともう1点、映像の万博後での使用の件、これについては、万博後も使用したいのご意見もいただき事務局でもそうしたいと応えているので、これは出来ないかもしれないが、今までの経緯を踏まえ、努力はさせていただきたいと思う。

中村議長: そろそろまとめたい。負担金については、プログラムとの関係等があるため、もう一度幹事会で揉んで、それぞれのトップに挙げていただいて決定する、という形にさせていただきたい。

その他については、基本的にはご了解をいただくということで進めたい。個々の出演者については、了解を得る過程で変更はありうると思うが、基本的な方向についてはこれでいくということでご了解いただきたい。

以上のようなまとめでよろしいようでしたら、拍手でご賛同いただければ大変ありがたい。

(拍手多数)

どうもありがとうございました。それでは、今ご賛同いただいた方向で、できるだけ早くまとめて、各地域に具体的な案をお示ししたい。

今日は環境省と林野庁から参加いただいているので、それぞれコメントや支援のご決

意を伺いたいと思う。

植田局長(環境省自然環境局):皆さんには大変お世話になっている。このイベント、大変私も楽しみにしている。やはり5地域の世界自然遺産が一堂に会して世界に発信をするというのはなかなかない機会である。とにかくその5地域がそれぞれお互いを知る機会にもなり、連携、今後の一体感という意味でも、大変重要なイベントになるのではないかと思います。我々も可能な限り全面協力でいきたい。よろしくお願い申し上げます。

石井課長(林野庁森林整備部森林利用課):今日初めて参加をさせていただき、素晴らしい映像と、5地域の地元の皆さんの熱量というのを非常に感じた。世界自然遺産の多くを国有林が占めている。私ども、国有林の管理という中で、しっかり引き続き、この自然遺産を守っていききたい、保全管理していききたいと思うので、引き続きよろしくお願いする。

中村議長:どうもありがとうございました。ここで何かどうしても言っておきたいというご発言がありましたらお願いをしたい。

馬場氏(屋久島環境文化財団役員):住んでいる人が主役の5地域会議でなければいけないと思う。屋久島ではポンカンが台湾から伝わって、100周年を迎えている。ところがそのポンカンが年を取りすぎて、枯木になってきている。私は、屋久島にしかない屋久島ポンカンを残すために、地元の人たちと一緒に、新たに何か新商品を作ることを考えている。昔、1村1品運動というのがあったが、それになぞらえて五感に訴える、そのような産物が皆様の土地にたくさんあると思う。私は今、屋久島の事業環境アドバイザーという立場にあるが、稼ぐ5地域会議を目指すべきだと思う。

ぜひ、屋久島だけでなく、各その地域の村長さん、町長さんたちが、これは残さなければいけないというものを万博の方に訴えていただきたい。地元の企業の人たちも5地域会議に賛同して、一緒になって万博に参加していただければ、盛り上がっていくのではないかと思います。5地域の方々と環境事業アドバイザーというのを1人作り、また5地域の人たちの中で一緒に考えていく。そういうことも今後いかがという提案になる。

中村議長:大阪万博の中で、地元の物産を販売するという事は、なかなかハードルが高いが、例えば試飲、試食、そういうのは可能かもしれない。さらに大阪の博覧会協会とも相談をしてみたいと思う。

以上でほぼ議事は終わりました。いずれにしても、私どもとしては、大阪万博の質を高めるイベントにしたいと思っている。世界自然遺産というもの、さつき山極先生もおっしゃったインパクト、これをどうやって維持発展させていくかという視点で、日本国内、さらには世界に発信できるということになれば、大阪万博の意義も高めることになると思っている。皆様方のご協力を得て、ぜひ成功させたいと思っている。今後ともよろしくお願い致します。

本日は忙しい中、出席をいただき感謝申し上げます。

(5)閉会

荒木副代表(屋久島町長):本日は長時間にわたり熱心なご議論をいただき、感謝申し上げます。世界へ発信するというのも非常に大事ですが、それによって5地域がしっかりと、自分の市町村を、また見つめ直す1つの機会にしていた



ければと思います。

いずれにしましても、あと半年で万博ですから、5地域会議のメンバーが力を合わせて準備を進めていきたい。私も小野寺代表と共に、微力ながら力を尽くしていきたいと思っています。最後に、改めて皆様のご協力をお願い申し上げ、第3回世界自然遺産5地域会議の閉会の挨拶とします。本日はどうもありがとうございました。

(以 上)

